

# 愛校心について

## ―母校の共学化と中高一貫校 併設に関連して―

東京桑野会副会長

平田勝也

(七十六期)



東京桑野会においては、現在しきりに「愛校心」が会員構成の若年層の減少と参加意識の低下と絡めて論じられています。安積高等学校は2024年8月創立140周年を迎えた県内有数の伝統校で、「開拓者精神」「質実剛健」「文武両道」の3つからなる「安積の精神」が息づいていると言われております。ただし、これらの標語は全国随所で唱えられる共通の精神で、本校だけの独自のものではなく、随時見直しや新たな価値創造の必要があります。

そして、2001年4月男女共学開始、2025年4月8日に中高一貫校「県立安積高等学校・同中学校」を開校し、建学以来大きな教育体制の変化を迎えつつあります。このような状況下で、東京桑野会の今後の在りようを考えてみました。

はじめに、愛校心とは受動的に与えられるも

のでも、上意下達で強制的に先輩から後輩へ押し付けるものではなく、先輩・同輩・後輩の間の絶え間ない活動や意思疎通、相互連携と互いの共同作業による連帯や共感による相互理解と信頼によって自然に育まれる歴史的産物と言えましょう。例えば、先輩方の輝かしい大活躍・対外的なスポーツ・音楽会・学校祭・修学旅行等への自発的参加と応援活動やボランティア活動あるいは様々なクラブ活動等によって共同参加による共感と連帯等によって生み出されたものです。在校生、卒業生、教職員、関係者一同の共通の土俵となるものと思います。開校以来の様々の経験の蓄積が成熟され、自由闊達な議論に基づく伝統とか精神とかが形成されてきたものと思います。

ここでは、安積高等学校の歴史を左右することになる上記の男女共学開始と中高一貫校開始の重要事項を中心に、愛校心と絡めて論じようと思います。

まずは、当校の設立にかかわる時代背景を説明致します。

江戸時代末期の日本は黒船来航などに代表されるように、欧米諸国の植民地獲得競争の一環として各国の来航が頻発し、江戸幕府と諸藩の夫々の異なる対応によって一貫して諸外国に対処する統一外交ができず、内戦となり明治維新を迎えた経緯があります。これらの世界情勢か

ら、欧米諸国の視察及び遊学は江戸時代末期から薩摩藩・長州藩及び江戸幕府によってなされていましたが、中国のアヘン戦争による植民地化などの脅威を強く懸念した維新政府は、これを積極的かつ計画的に迅速に進めると同時に、お雇い外国人などを導入するなど、国力を急速に高めるため、直接に文物・科学・商工業・諸法規の整備を進め、廃藩置県を経る「文明開化」の流れがあり、併せて東京帝国大学の前身の大学校整備を進め、明治三年二月に「大学規則」とともに「中小学規則」を定めました。

欧米の学校制度にならって、学校を三段階に構成「中小学規則」を定め、この中学は「専門学」を授ける学校であり、学制後の中学校とはかなり異なった性格で、当時の諸藩や府県の学制改革に影響を与え、その後「中学」または「中学校」と称する学校が各地に設けられました。当時の中学校は、その地方における最高学府であり、小学校よりも程度の高い普通教育および専門教育の一部を授ける総合的な教育機関でした。そして多くはその藩や府県の教育行政の機能をも持ち、また教員養成機関をも兼ねていました。旧制中学校は、中学校令（明治19年勅令第15号および明治32年勅令第28号）に基づき、各道府県に少なくとも一校以上の規定で設立されました。（文部省）

我が校は、明治維新のこれらの学制改革の一



これらのことから、既に進行中の男女共学の現実を踏まえて改めて利欠点を掘り下げて、新  
安積高等学校の新たな進路を模索し存立理念を  
確立する必要を感じます。これは学校当局や現  
役生徒や卒業生も含めて、今後の安積高等学校  
のあるべき姿や具体的な教育方針・各種クラブ  
活動・校歌・応援歌等について率直な議論・討  
論・投稿等を進めるべきと考えます。もはや、  
在生徒の四十数%を越える女生徒の存在を抜  
きにした議論はあり得ず、安積高等学校のある  
べき姿を模索すべき根本的な問題となっており  
ます。東京桑野会の存立基盤にも重大な影響を  
与える命題で、関係者の大いなる努力と問題点  
の掘り下げが必要です。

次に、中高一貫校は本年より開始されました  
が、そもそも何故このような学制が必要とされ  
たのかを考えなければなりません。

中高一貫教育制度は、「21世紀を展望した我  
が国の教育の在り方について」（平成9年6月  
中央教育審議会第2次答申）において、その基  
本的な考え方や制度の骨格が示されました。

平成9年答申においては、中高一貫教育が、  
私立の中・高等学校を中心に、實際上相当の広  
がりを持って行われていた現状も踏まえ、心身  
の成長や変化の著しい多感な時期にある中等教  
育において、一人一人の能力・適性に応じた教

育を進めるため、中学校教育と高等学校教育を  
6年間一貫して行うことについて、大きな幾つ  
かの利点を持つ中高一貫教育を享受する機会を、  
子どもたちにより広く提供すべく、中高一貫教  
育を導入することが適当であるとししました。  
（文部科学省）

このような国の方針を受け、福島県において  
も中高一貫教育の導入方針を固め、既に会津学  
鳳高等学校（平成19年度）・ふたば未来学園  
高等学校（平成31年度（令和元年度））が誕生  
致しました。

設立理念は国の方針に準じるもので、福島県  
教育委員会では、2020年2月に策定した  
「中高一貫教育後期実施計画」に基づき、既設  
高に続き新たな中高一貫教育校を安積高等学校  
に併設型で設置しました。基本計画では、学校  
の概要や教育内容、開校に向けた教育内容等準  
備計画、施設整備計画についてまとめています。

学校名は福島県立安積中学校・高等学校。開  
校年度は2025年度。設置課程・学科は全日  
制普通科。生徒募集定員は中学校60名。通学区  
域は県下一円。スーパーサイエンスハイスクー  
ル（SSH）事業における課題研究を軸とした  
産学官連携、地域との共創等を特色とする取組  
みや、文化活動を尊ぶ郡山市の立地を生かした  
教育内容としました。また、教育の柱として、

STEAM教育の推進を掲げ、創造性、表現力、  
課題解決力等を育成するものとししました。

これとは別に、少子高齢化の進展と共に就学  
生徒が減少し、県内でも学校の集約化による統  
廃合が進行中で、教育界の再編成が行われ学校  
の絶対数が縮小しつつあり、これらの動きと今  
回の改革とは謂わばスクラップアンドビルドの  
ような一連の動きと関連がありそうので、複雑微  
妙な心境です。

新しい時代の風土には、それに適した新しい  
器と新しい酒も必要で、勇気をもって改める点  
と、新しく取り入れる点を点検し、柔軟に関係  
者一同大いに盛り上がって、新しい伝統を築こ  
うではありませんか。

最後に、以上の考究すべき思索には、英国・  
仏国・独国・米国・中国等の明治日本が範とし  
た当時の先進国の教育制度の検証や再発見も必  
要です。私は、個人的には、英国のオックスフォ  
ード・ケンブリッジ大学等への著名な進学校のパ  
ブリックスクールの厳しくもおおらかな教育方  
針・校風が理想的で、ジェームズ・ヒルトンが  
1934年に発表したイギリスの小説で、「チツ  
プス先生さようなら」に描かれる自由な空気と  
歴史とが眩しく見えます。